



店舗入り口に設置する機器
＝多治見市高根町、中部薬品本社

カードをピッ! お得情報

中部薬品「VドラP i t」1日開始

AIで顧客購買情報分析、クーポン発行

バローグループでドラッグストア「Vドラッグ」を展開する中部薬品（多治見市高根町、高巢基彦社長）は、購買情報を人工知能（AI）が分析して買い物客に合った商品の提案や、クーポンを発行するパーソナルプロモーションサービス「VドラP i t」を始める。買い物客が店舗入り口の機器に、グループのプリペイドカード「ルビットカード」をかざすと画面に商品が表示され、クーポンが発行される。業界では先進的な取り組みといい、11月1日に機器をVドラッグ全395店舗に導入する。（山本貴史）

パーソナルプロモーションサービスは、買い物客の購買情報をAIが分析し、購入する可能性が高い商品を判別。商品を購入すると、カードのポイント還元が多くなるクーポンを発行するほか、顧客の購買傾向に合った商品の広告や店舗のキャンペーン情報を表示する。発行されたクーポンは、会計時に店員に見せる必要はなく、対象商品を購入すれば自動で適用される。中部薬品はグループの広告のデジタルシフトを背景に、折り込みチラシの画一的な情報だけではなく、顧客に適した情報を個別に届けるマーケティング戦略が必要と判断。個人の購買情報の分析、パーソナルプロ

モーションを得意とするマギー（沖縄県豊見城市）が提供する機器を販売促進に取り入れることにした。サービスの導入により、カード会員数、来店客全体

に占める会員の割合の増加を目指すほか、顧客1人当たりの購買点数や来店回数の増加につなげる。担当者は「蓄積している購買情報を活用し、顧客の価値観に寄り添ったサービスを提供できるようにしたい」と話している。